

馬

神

淨寫

檢台
山吉

鏡
川名

渡
自

長官

次官

局長

主査

属僚

参査

松

五月

十五日

工部省依新設の建設局に於て事務の整理を期すに
主査の職務を別に調査課を設け事務を分掌せしむ
に付て可成り事務を整理すべし

並九〇四號

本年建設省建設局に於て事務の整理を期すに
係主査の職務を別に調査課を設け事務を分掌せしむ
に付て可成り事務を整理すべし

十六
指

0626

長年在任の如き故に事務高き及此の如き如

万葉の内局長

明治二十六年十一月

國海王部加藤信俊

0627

上野六十一号

工部省の依頼に依り、
式採中、浮橋の必要所を
可修なる箇所を九〇号
即ち常及の道筋を案
地を以て及の敷地也
十六年四月五日
南郷田局長殿



普集九。四號七

十九

横須賀造船所

0628

横須賀湾浮標礁標起原及沿革調

一湾内淺瀬ヲ示ス浮標

七個

起原

明治維新以來ノ設置ニ係ルニ雖佛國人在職中ノ扱ハレテ其年

月等詳ナラズ

沿革

詳ナラズ

標形

円筒状ニシテ金色赤

一出入渠艦船一時繫留用浮標

一個

起原沿革等同前

一小海湾淺瀬ヲ示ス浮標

三個

二十

横須賀市立公行

0629

起原

明治十二年一月小海灣海岸新設

標形塗色

同前

量及代價

四百三十五キロ代金百七拾八円者壹個量百三十三キロ代金

三拾六円ノ者二個

一灣口暗礁ヲ示ス浮標

一個

起原

明治七年五月龍驤艦ノ航スルニ當リ横須賀灣門ノ東方ニ於テ一座ノ暗礁ニ抵觸ス依テ其形狀ヲ探リ水面下九之尋半ノ深ナルコトヲ知リ其深淺形狀ハ後チ之ヲ水路局刊行ノ海圖ニ掲載スト雖爾来船舶誤テ此危險ニ陥ル有ラニテ

恐レ同年四月一ノ浮標ヲ礁上ニ設置シ四月廿日落成セリ

位置

横須賀湾口放破島ノ中心ヨリ真方位北東微東四分三
東ニ五鏈八即ケハ西九間ヲ距レ又夏島ノ南南ヨリ椽島ノ
中心ヲ貫テ一直線上ニ在テ夏島ノ南南ヨリ一里四鏈半即
二十四所三十七間椽島ノ中心ヨリ一里五鏈半即ケ二十四所十九
間ヲ距レ

礁形

楕円形ニシテ南北ニ長ク東西ニ短シ全周約三所ニシテ干潮ノ片
ト雖水面ニ露出スルノナク礁上水面ニ至ルノ深サハ満潮ノトキ
一丈七尺干潮ノ片九尺ナリ

標形

礁標ハ鉄製ニシテ直チニ岩礁ノ中心ニ建置シ頂キニ全至

0631

標形 船

ニ尺ノ赤色球籠ヲ載ス右竈上ニ満潮ノ井水面ヨリ高サ三尺餘ナリ

量及代價

量四百六拾四キロ代金百八拾五円六拾錢

一 灣外サク子暗礁ヲ示ス標杭

一 基

起原

設置起原年月等詳ナラス

標形

標杭、鉄製ニテ頂上ニ赤色球状ノ籠ヲ架シ籠ノ大ヤ中至ニ

尺満潮ノ井水面ヨリ高サ三尺餘ナリキ

沿革

明治十三年六月従来ノ標杭ヲ脱去シ同月新製ノ「メジエ」ド

マイルポストヲ以テ標杭ノ用ヲ兼テシム

0632

メジエルトマイルポストノ形状

マイルポストノ形状ハ水面上高十三メートル餘ノ竿頭ニ菱形

大至ニメートル余ノ桿ヲ附着シタルモノナリ

一笠島礁標

起原

此笠島礁標ハ當所々管外ナリ簿書中
偶掲載アリテ以テ參考ノ為ニ此ニ掲奉ス

明治三年己巳五月八日字

ヨリ神戸ニ至ル航路中全夜

礁ニ墜レ竟ニ沉没ス之ニ因

所産佛人副首長ヲボジト氏ヲシテ石時礁

同氏ヲシテ標的ヲ建シ禁セシム全年七月五日以落成レ即チ浦

觸ヲ浦賀及其近村ニ祭レ渡船ノ上ニ繫留スルヲ禁ス

沿革

0634 0633

メジエルドマイルポストノ形状

「マイルポスト」ノ形状ハ水面上高十三メートル餘ノ竿頭ニ菱形

大至ニメートル余ノ桿ヲ附着シタルモノナリ

一個

明治三年己巳五月八日宇國郵船ハヤロマ

横濱廿九番横濱

ヨリ神戸ニ至ル航路中全夜六ツ時過久里濱村字笠島暗

礁ニ墜シ竟ニ沉没ス之ニ因テ神奈川裁判所ハ横須賀製鐵

所雇佛人副首長ヲボジョ氏ヲシテ右暗礁ヲ測量セシメ遂ニ

同氏ヲシテ標的ヲ建築セシム全年七月五日落成シ即チ浦

觸ヲ浦賀及其近村ニ築シ漁船ノ之ト繋留スルヲ禁ス

沿革

0634 0633

本邦の海防

明治三年庚午七月十八日風波ノ為ノ談標流失ス

標形

當時ノ簿唇ニ就テ之ヲ推測スルニ其標形ハ錢竿上ニ錢
籃ヲ装置セシモノ如シ其尺寸塗色ノ如キハ分明ナラズ

吏員

當時ノ簿記疎漏ニシテ分明ナラズト雖ハ別ニ管理ノ吏員
ヲ置ル久里濱村々吏ヲシテ看守セシモノ如シ

經費

簿唇散逸人ヲ考フヘカラス

其他書式ノ廉々分明ナラズ

0635

明治元年十月 肥前兵隊乗組セ
豆州繩代村湾ニ於テ沈没ス

明治二年二月 湘武蔵艦品川海ニ碇泊中火ヲ失シ
火薬庫破裂シ艦身沈没ス

明治三年三月十五日 豊津藩知事志原献スル所
虹橋船兵部省北海道ニ航セントシ暴風ニ遇ヒ同年

七月廿三日 上総國夷隅郡河津村根津浦暗礁ニ觸
レ破壊午後四時七分

0638

其の所領上何分、此等、本所領其
乃其由云々也

明治二十六年甲午十一月廿二日
由馬長

孫計長
了了

0640

記号五十一
 工部一名の他に於て是段の由を因り
 して其の意を以て此の如く記す
 留書共しるし業後計し留へ付せしむ
 志の杜れしに之より只當時の如く
 属すか抄止む其書の真の如く
 此の如く此の如く此の如く此の如く
 二条武敏公の御書に於て此の如く
 留る於て其の意を以て此の如く
 此の如く此の如く此の如く此の如く

第九の四號

二十六

毎頁首

0641

Handwritten Japanese text in a vertical column on a grid background. The text is written in a cursive style (sōsho) and appears to be a signature or a name, possibly reading '山本 徳太郎' (Yamamoto Tokutaro).

山本 徳太郎

0642

海軍所管難波船調

艦船名 難波事由

東京丸

明治五年二月廿九日午後品海出帆三月二日正午十二時過北海
道ノコナイニ於テ濛霧強ク暗礁ニ乗上テ船底ヲ損シ午
後五時頃沉没ス

第二卯艦

明治六年八月九日北海道擇捉島ニ航向ノ際深霧
暝暗同日午後九時四十五分同島西岬ノ暗礁ニ墜シ
破壊ス

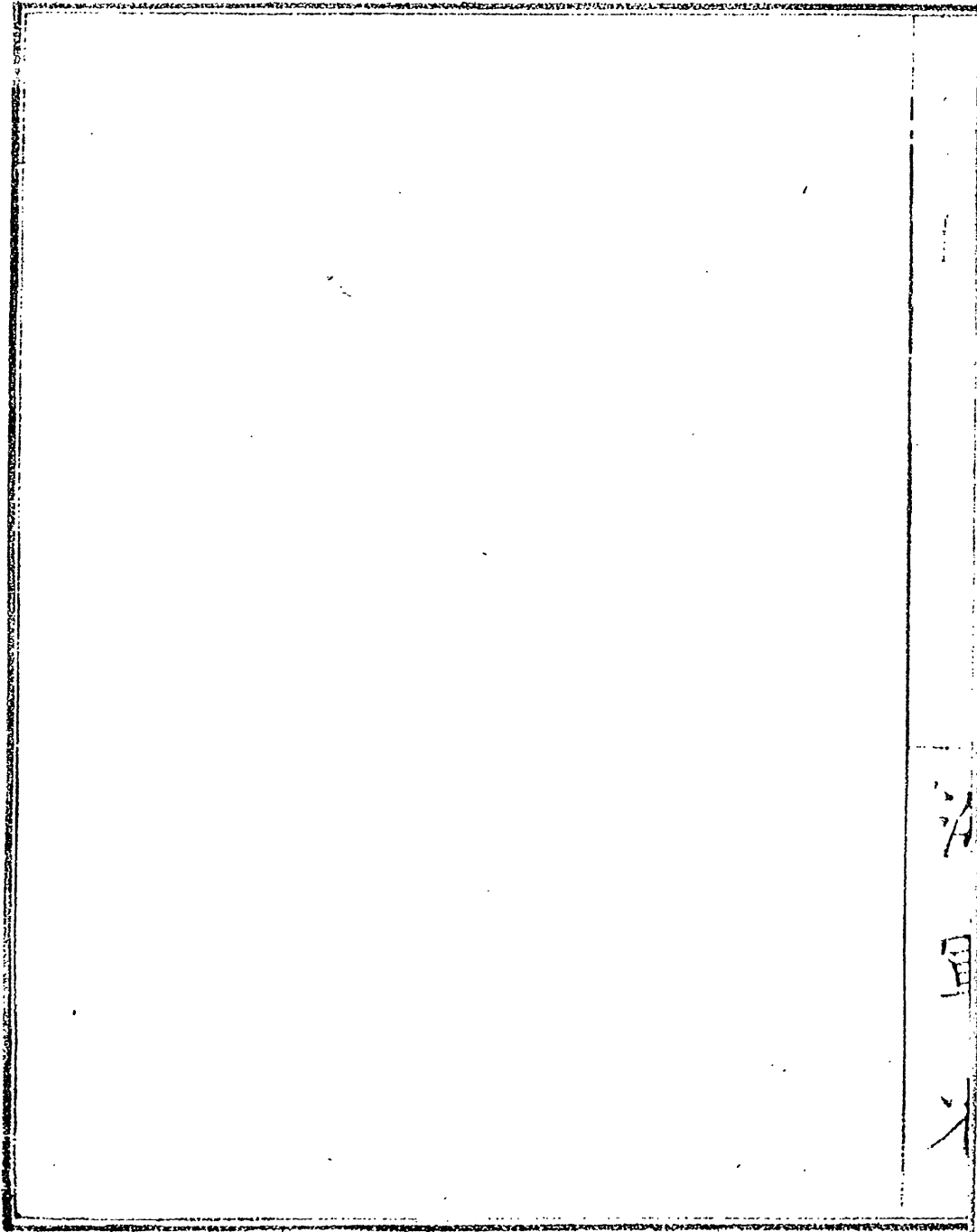
大阪丸

明治八年十二月廿五日山口縣下周防国八島沖ニ
於テ三菱會社船名古屋ト衝突沉没ス

雲揚艦

明治九年十月廿一日夜紀州阿田和浦ニ於テ暴風
雨ノ為ニ破壊沉没ス

0643



海軍
史
文

0644

明治二十五年四月廿七

大田内閣大臣

記録簿

土佐権方書記官より

普
九〇四號三

本邦領土に在るに及んで、起原は、幸か不幸か、
角身、如く、其の事、其の事、送付、才、あ、り、
其の事、公、照、云、其の事、其の事、八、夜、或、
信、標、公、其の事、其の事、其の事、其の事、
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、
其の事、其の事、其の事、其の事、其の事、

明治二十五年四月廿七

大田内閣大臣

先之、其の事、其の事、其の事、

0646



甲第拾貳號
 今般在深_ニ於_テ在_ル於_ル燔_テ臺_ニ達_ス後_ニ之_レ記
 原_ニ沿革_ヲ取_リ調_ベ之_レ物_ヲ多_ク有_リ之_レ我_レ記_ニ載_ス之_レ
 事_ニ項_ニ要_ニ用_ス之_レ有_リ之_レ貴_ニ者_ニ於_テ燔_テ
 臺_ニ達_ス後_ニ之_レ他_ノ古_ノ事_ノ項_ニ矣_スル_レ者_ニ記_ス之_レ
 書_ノ數_ハモ_ト古_ノ所_ニ藏_ス之_レ者_ニ有_リ之_レ其_ノ母_ノ樣_ノ
 式_ニ據_リテ_モ古_ノ所_ニ藏_ス之_レ者_ニ有_リ之_レ其_ノ母_ノ樣_ノ
 朱_ノ大_ノ樣_ノ占_メ取_リ計_ス之_レ度_ニ此_ノ及_テ
 以_テ照_ス會_ス也

經計課副長

明治十六年三月廿日 工部書記及圖河民嘉



普第九。海軍書記及中

0647

本邦燈臺ノ起原及沿革調(官縣私築)

一本邦燈臺ノ起原

一各國ト締盟以前燈臺ノ景況

一各國ト締盟以降明治維新ニ至ル燈臺ノ景況

一明治元年以降現今ニ至ル燈臺ノ景況

以上ノ科目ニ就テ各其實況ヲ記述スルニハ左開ノ事

項ヲ明瞭ニ區分スルヲ要ス

一 燈臺事務

例一八

一 燈臺事務ノ項ヲ編纂スルニ當テハ何年何月何

日政府何ノ目的アリ燈臺設立ノ議ヲ發シ從テ

管理スル官廳若クハ隸屬即チ局課等ノ名稱ヲ

二
音
一
掲示レ又其處辨セシ事務ニ就キ各件之ヲ細示
レ其景况ヲ詳明陳述レ以テ盛衰伸縮ノ實蹟ヲ
親シク見ルカ如クナラシムヘシ

一 燈臺築造

一 燈臺築造ハ本邦ニ於テ何年何月何日初テ燈臺
ヲ何港ニ築造シ其燈光達スル所ノ効力又之ヲ
築造シタル人名其築造ニ用タル資材ノ質又其
結構ニ就キ高低廣狹ノ尺度漸次施テ之ヲ沿海
各所必要ノ地ニ設立セシ月日ノ成蹟ヲ詳ニ列
挙スルモノトス

一 燈臺局ニ屬スル家屋建造

一 燈臺局ニ屬スル家屋建造ハ往古燈明者守吏ヲ
居住セシムルニ別ノ家屋ヲ設ケス燈臺下部ノ

0650

結構ニ因テ兼用シタルヤ否又建造ノ資材及屋
上ノ構造又風雨ヲ防クヘキ改良アリタルヤ否
其他凡テノ形状ヲ詳明陳述スルモノトス

一 燈臺局役員

一 燈臺局役員ハ各部之ヲ區別シ其主長屬官ヨリ
燈明看守吏ニ至ル各等級給料及役員ノ計數等
凡テ之ヲ示スモノトス

一 燈臺ニ関スル物品

一 燈臺ニ関スル物品ハ點火必需ニ係ル燈盞若ク
ハラニフ若クハ燈心其物品ノ質何ヲ要シタル
カ又風雨ヲ防クニ適用スル物品其質紙若クハ
和製ノ硝子若クハ舶來品何國ノ製ニ係ルカ又
光線ノ遠キニ達スル善良ノ反射器ヲ要シタル

0651

等凡テノ形状ヲ詳ニ揭示スルモノトス

一 經費

一 經費ハ右五項ニ叙述シタル事ニ就キ要シタル
費額等ヲ順次詳明ニ之ヲ登記スルモノトス

一 難破船

一 難破船ニ就キテハ蓋シ前五項ノ結果ヨリ之ヲ
救助保護スル效驗ヲ奏スルモノナレハ燈臺近
傍ニ於テ難破シタル船舶ハ各之ヲ區別シ詳細
ニ陳述スルモノトス

但シ浮標礁標ノ起原及沿革調モ亦燈臺起原及沿
革調ノ概例ニ準シ科目事項ヲ記載スヘシ

0652